



【話題の映画やドラマの原作本！たくさんあります！】

昨年度の貸出ランキングは、1位『人間失格』（太宰治）、2位『キセキ-あの日のソビト』（小林雄次）で、トップ10のほとんどを映画やドラマ、アニメ化の原作本が占めました。

今年度も『屍人荘の殺人』『暗黒女子』『これは経費で落ちません!』『半分、青い』といった原作本の貸出が多くなっています。

図書館では“原作本コーナー”を特設しており、映像化される注目作品の情報を早めにキャッチして、生徒のみなさんに手に取ってもらえるようにしています！

現在公開中の映画『劇場』（又吉直樹著：山崎賢人・松岡茉優主演）、来月公開の『思い、思われ、ふり、ふられ』（兵辺美波・北村匠海主演）、『糸』（菅田将暉・小松菜奈主演）、『青くて痛くて脆い』（住野よる著：吉沢亮・杉咲花主演）、ドラマでは『半沢直樹』の原作の一つ『銀翼のイカロス』（池井戸潤著）や『家政夫のナギサさん』（多部未華子主演）などがあります。

今回、紹介しきれない原作本もたくさんありますので、ぜひ、図書館で見てください。



公開予定	原作本タイトル	著者他	主演俳優
3月済	弥生、三月	遊川和彦	波瑠・成田凌
9月	ミッドナイトスワン	内田英治	草彅剛
9月	はたらく細胞	清水茜	
今年	とんかつDJアゲ太郎	イービャオ	北村匠海・山本舞香
今年	護られなかった者たちへ	中山七里	佐藤健・阿部寛
今秋	おらおらでひとりいぐも	若竹千佐子	田中裕子・蒼井優
今秋	ドクター・デスの遺産	中山七里	綾野剛・北川景子
来年	太陽は動かない	吉田修一	藤原達也・竹内涼真
来年	ファーストラブ	島本理生	北川景子
来年	名もなき世界のエンドロール	行成薫	岩田剛典・新田真剣佑
来年	恋する寄生虫	三秋純	林遣都・小松菜奈
Netflix 配信中	泣きたい私は猫をかぶる	岩佐まもる	志田未来（声）

【with コロナの時代に料理の腕をみがいて！】

みなさんはこのコロナ禍の中をどのようにお過ごしでしょうか？ 様々な状況の中、ほとんどのご家庭で家族と過ごす時間が増えたのではないのでしょうか？ そんな中で お子さんたちの三度の食事をきちんと用意する保護者の役割には、本当に頭がさがります。

ところでお子さんたちは、進んで“食”に関わってくれていますか？ 外食・中食が不可能になる時代が来ないとは言いきれませんが、先の見通せない世の中ではありますが、子供たちが大人になる頃は間違いなく、個人個人が 家事をこなせる技術が必要になるだろうと予想されます。特に衣・食・住のなかで“食”は直接命に関わることなので、この機会にご家庭の“技”をお子さんに伝授してみませんか？

図書館ではいろいろな“料理本”をそろえています。伝統和食あり、男料理あり、パンやチョコレートや、スイーツから世界の味まで、ぜひ！ 普段馴染みのない料理にもふれてみてください。

※図書館は8月2日～20日まで休館します。



【図書館に異変???

例年ならば、7月は、一年の中でも、最も図書館が活況を呈す時期で、それは、ハッキリと数字になって表れています。例えば、昨年度の場合、毎朝7時からスタートする朝自習は680人が利用し、1333冊の貸出がありました。昼休みや放課後も約2000名近くの生徒たちが利用していたのです。

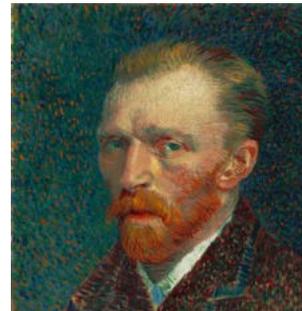


ところが、今年は6月に分散授業が始まって、実に閑散とした状態が続いています。考査1週間前になってようやく利用者が増えた程度で、本を借りていく生徒も数えるくらいしかいません。

さらに、この時期は大学受験を控えた高3生の利用が圧倒的に多いのですが、どうしたわけかほとんど姿がありません。本年度は、大学入試が《知》の活用へとシフトチェンジされる初めての学年ですから、図書館に配架されている約2900冊もの新書や赤本(約400冊)、参考書(約400冊)が、もっと利用されてもよいはずですが。(写真は、去年7月の放課後・自習風景)

どうやら4か月に及ぶコロナウイルスの感染拡大という濁流は、これまでに培われた図書館を利用するの学習習慣を、すっかり分断してしまったようです。

【極上のひとときを、極上の空間で】



『僕の魂の中には大きな炎が燃えているのだが、誰も暖まりに来る者はいない』

これは、ヴァンセント・ヴァン・ゴッホが残した言葉ですが、ちょうど今の図書館の状態を表しています。

明星の図書館は、その蔵書数(約10万冊)に於いても、その品揃えの豊富さに於いても、そのヨーロッパの「書齋」を思わせる雰囲気にも、中学・高等学校の学校図書館としては全国有数の教育的環境を整えているにもかかわらず、コロナウイルスの感染拡大以来、利用者が激減しました。

これでは、まさに「宝の持ち腐れ」です。

全国の小・中・高生が求める「面白い本がある」「安心できる場所」(2016年

「第62回学校読書調査報告」毎日新聞社&全国学校図書館協議会)として、明星の図書館が多くの生徒たちからの支持を集めていたことは、リニューアルオープンした2017年以降に、5266冊、7549冊、10103冊と貸出冊数が順調に伸び、来館者数も、12962人、19558人、25041人と飛躍的に増加してきたことが証明してくれています。



3年前、受験のための面接練習をした時、ポキャブラリーの豊富さや磨かれた表現という点で大人顔負けの応対をした女子生徒がいました。聞けば、自宅に父親の書齋があって、小さな頃から読書をしていた、ということでした。宇治に黄檗山万福寺を開いた隠元禅師は、民衆の俗心を高めるためにも寺院は荘厳第一であらねばならぬと考えていました。

「孟母三遷」を引き合いに出すまでもなく、環境が子どもに与える影響は、大人が思うよりも大きいものです。もちろん、授業や講習の場所は指定されていますが、どこで自習するかは自分で決めるくらいの自主性がなければ、逆に学力も育ちません。

読書が学習能力を高めることは、学力世界一に輝いた読書大国・フィンランドが実証してくれています。そして、そのスキルは丸暗記によって得た知識とは違って、生涯、お子様の人生で生かされていくでしょう。

明星には「図書館」という素晴らしい書齋があります。

極上のひとときを、極上の空間で過ごす贅沢さは、慌ただしい生活の中であって、豊かな人間性を育むだけではなく、正しく物事を眺める精神的余裕を与えてくれるのではないのでしょうか。

※「孟母三遷」 中国の思想家・孟子の母が、子どもの教育に適した環境を選んで住居を三度も移ったという故事。(墓場→市場→学校)